

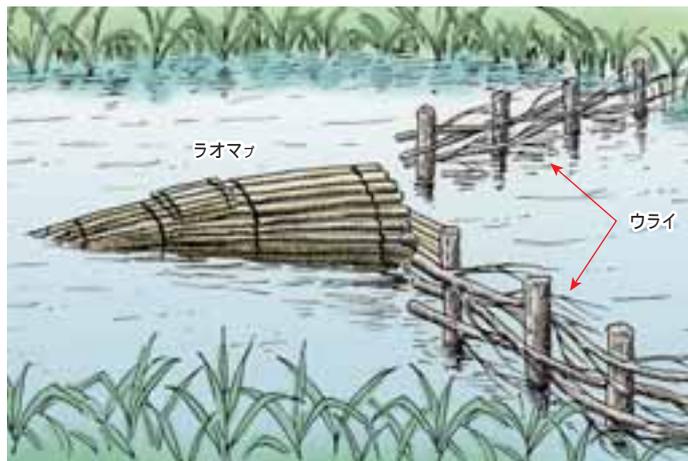
## 魚をとるためのしかけ 「ウライ」

「ウライ」は川はばのせまい小川に、V字形に何本かのクイをうち、これにヤナギの枝などをからませたものです。「V」の先に、魚が入ったらにげられない「ラオマフ(どう)」をしかけておいて魚をとります。

魚がのぼる時・下る時に合わせて「V」の向きを変えました。



現在、人工ふ化( p236)のために猿別川でサケをつかまえるしかけも「ウライ」と呼ばれる。ただし、かなりの大きさと、V字形ではない。



ウライと、その一番おくにしかけられたラオマフ。(参考:『北海道の自然と暮らし』)



テシによる漁。タモ網ですくい取っている。

(平澤屏山『蝦夷人川魚を捕る図』 函館市中央図書館蔵)

## 魚をとるためのしかけ 「テシ」

「テシ」は、川はばの方向にまっすぐ何本もくいを立て、そこにヤナギの枝を編んだものをはりつけたしかけです。テシで行き場を失った魚を、網やマレク、あるいは魚がふれると網が自動的に持ち上がって魚をとるしかけなどで、とりました。

また、2そうの丸木舟(チフ)の間にふくろ状の網を張り、上流から魚を追いこんでつかまえる「ヤス」漁も行われました。

## 「シシャモ」は「スサム」から ... 川魚のアイヌ語名

川魚のアイヌ語名を紹介します。

- ・サケ：カムイチェフ
- ・イトウ：チライ
- ・サクラマス：イチャニウ  
ヤママ：イコイチャンコロチェフボ
- ・ヒメマス：カパツェフ
- ・オショロコマ：チポロケソ
- ・ウグイ：オツワッキ  
産卵期のウグイ(アカハラ)：スブン
- ・ハナカジカ：パケポロ
- ・ドジョウ：チチラカン
- ・フナ：ランパラ
- ・シシャモ：スサム(スス・ハム[ヤナギの葉]から)
- ・ヤツメウナギ：ウクリベ

「シシャモ」という名前は、「スサム」というアイヌ語名からきています。また「オショロコマ」は、別の地方でのアイヌ語名「オソルコマ」からできた名前です。

ヒメマスのことを、北海道で「チップ」ということがあります。これはアイヌ語の「チェフ=魚」を聞きちがえたものです。チップ(チフ)では舟のことになってしまいます。

ここにあげた魚は、ほとんどが食用とされましたが、ヤツメウナギはちがいます。

ヤツメウナギは干して軒先につるし、病気を寄せつけないための「おまじない」として使いました。

レク」の別の地方での呼び名。